

「徒然なるトリビュート」第五弾は ネクライトーキーによる「波のある生活」

ネクライトーキー 「波のある生活」 MV URL : <https://youtu.be/BBMsFFyBz2s>



コンテンツスタジオ CHOCOLATE Inc.（本社：東京都渋谷区、代表取締役：渡辺裕介）は、「サントリー天然水 GREEN TEA」のプロモーション企画として公開している「徒然なるトリビュート」の第五弾として、本日6月19日にネクライトーキーによる「波のある生活」を公開いたしました。

「波のある生活」は、ネクライトーキーが「徒然草」の第243段を「子供の頃に、素直な疑問を持つことは素晴らしいことだし、大人になっても、それに対して適当にあしらっていてもあまり良くないよ」と再解釈して制作した楽曲で、フジファブリック、崎山蒼志、tofubeats、Saucy Dogに続く「徒然なるトリビュート」の企画から生まれたものです。

■ 「徒然なるトリビュート」特設サイトURL：

<https://www.suntory.co.jp/water/tennensui/greentea/tsuredure/index.html>

ネクライトーキーによる「徒然草」第243段の再解釈：

子供の頃に、素直な疑問を持つことは素晴らしいことだし、大人になっても、それに対して適当にあしらっていてもあまり良くないよ。



ネクライトーキーが持つ独特の空気感の中には、多くの人が幼少期に抱いたことがあるような素朴な疑問や気持ちだったり言葉では言い表せない感情が、音楽や歌詞として強く現れています。

今回のMVは、楽曲からのインスピレーションだけではなく、それぞれにとっての幼少期の記憶を重ね合わせてたような、どこか温かみを感じられる内容になっており、例えばお子さんを持つ大人な皆さんにも、まだまだ子供な皆さんにも、多様な感性で楽しんでいただけたと思います。ちなみに、撮影現場で子役の富岡さんと触れ合うメンバーは富岡さん以上に子どものように見えました（笑）

Cast：富岡明咲

Director：森野 泰至（ACHERON Inc.）

Cinematographer：松田 真（ACHERON Inc.）

AssistantCamera：田村 俊明（ACHERON Inc.）

LightingDirector：岩崎 高也

Hair&Make up：大田 葵（Mk.9）

CreativeDirector：小名 良平（NIN）

Producer：宮腰 達也（ACHERON Inc.）

「徒然草」第243段について

徒然草 第243段 原文

八つに成りし年、父に問ひて云はく、「私は、如何なる物にか候ふらん」と言ふ。父が云はく、「仏には、人の成りたるなり」と。また、問ふ、「人は、何として、仏には成り候ふやらん」と。父、また、「私の教へに因りて、成るなり」と答ふ。また、問ふ、「教へ候ひける仏をば、何が教へ候ひける」と。また、答ふ、「それもまた、先の私の教へに因りて、成り給ふなり」と。また、問ふ、「その教へ始め候ひける第一の仏は、如何なる仏にか候ひける」と言ふ時、父、「空よりや降りけん。土よりや湧きけん」と言ひて、笑ふ。「問ひ詰められて、え答へず成り侍りつ」と、諸人に語りて、興じき。

徒然草 第243段 現代語訳

私が八歳になった年に、父親に問いかけて言った。「私は、どういふものですか」。

すると、父が答えた。「仏には、人間がなるのだよ」と。再び、私は尋ねた。

「人間は、どのようにして、仏になるのですか」と。父は、また答えた。

「私の教えによって、なるのだよ」と。三度、私は聞いた。「教えなされた仏を、誰が教えになられたのですか」と。また、父が答えた。

「それもまた、その先の私の教えによって、仏になられたのだ」と。四度、私は問うた。

「その教え始めなされた第一番目の仏は、どのような仏だったのですか」と聞いた時、

父は、「さあて、空から降ってきたのだろうか。土から湧いて出てきたのだろうか」と言っただけで笑った。

「息子に問い詰められて、とうとう答えることができなくなりました」と、父はいろいろな人にこのことを語っては、面白がった。

引用元：「徒然草」(奥内翰子 校訂・訳、ちくま学芸文庫)

ネクライトーキーについて



■プロフィール

2017年Gtの朝日が中心となり、もっさ(Vo/Gt)、カズマ・タケイ(Dr)、藤田(Ba)により結成されたバンド、ネクライトーキー。2019年3月にキーボードの中村郁香が正式加入し、5ピースバンドとなる。公式ウェブサイト：<https://necrytalkie.jp/>

■コメント

「波のある生活」は今までの曲達より爽やかな曲になったかと思います。ありのままにいることは難しいけれど、曲を聴いて昔はどうだったっけ？と顧みる機会が作れることが出来れば嬉しいです。